

こんにちは！ 室長の工藤です。

4月のことですが、東京のテレビ局の方から青森市内に「浦島太郎」の伝説がないかという問合せがありました。地名辞典を繰ってみると、野内村の小字に「浦嶋」とありますが…果たして浦島太郎と関わりがあるのかどうなのか、まったく分かりません。

それでも諦めずに調べていくと、享保2年（1717）に8代将軍徳川吉宗が派遣した奥羽巡見使の一人である高城孫四郎の「奥州出羽松前巡見覚」（以下「巡見覚」）と、高城の供をした日記役による「陸奥出羽松前蝦夷巡見並名所旧跡陸海道法り細見」（以下、「細見」）というふたつの記録にたどり着きました（いずれも北大所蔵）。

まずは「巡見覚」の方からみてみましょう。高城一行は7月16日に青森町から野内村の方に向かって進みます。そして、野内村で「龍のはな」（龍之口のこと？）という岩を目にします。さらに、この岩の左の方に「浦嶋森」という山があってその海手には（海中に？）洞穴があって、昔、浦嶋太郎が釣りをしたと記されていました。一方、「細見」では洞穴の話は出てきませんが、浦嶋森で釣りをしたことを記しています。



野内にある「龍之口」

どうやら、龍之口付近に浦島太郎にまつわる伝説の痕跡があるようです。そして、龍之口は龍宮と結びつく？また、「ほら穴」はもしや龍宮城への入り口？…などと想像は膨らみます。私の妄想はともかく、ふたつの記録をテレビ局の方にお伝えしたところ、今度は浦島太郎伝説を研究されている大学の先生から連絡がありました。「巡見覚」「細見」ともに見た記録だったようで、あれこれと内容について尋ねられました。そのなかで、「台本」という言葉が何度か出てきていたので、テレビ番組として制作が進んでいるのかもしれない。

さて、青森の「浦島太郎」がどう評価されるのか気になるところですが…そう、わが家にはテレビ受像機がないのでした。